平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月8日

上場会社名　株式会社 ヤマノホールディングス　　上場取引所　大
コード番号　7571　URL　http://www.yamano-hd.com/
代表者　(役職名) 代表取締役社長兼最高執行責任者　(氏名) 山野　義友
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長　(氏名) 金木　俊明　TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日　平成24年2月9日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	17,783	△9.1	314	136.3	256	136.8	138	―
23年3月期第3四半期	19,563	△19.0	133	138.6	108	466.1	△56	―

(注)包括利益　24年3月期第3四半期　192百万円　(―%)　23年3月期第3四半期　△102百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	3.81	―
23年3月期第3四半期	△2.30	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	12,058	2,214	4.8
23年3月期	11,328	1,984	3.2

(参考) 自己資本　24年3月期第3四半期　578百万円　23年3月期　361百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
24年3月期	―	0.00	―		
24年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,800	△8.4	425	122.5	350	126.5	150	―	4.01

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	34,497,058 株	23年3月期	32,707,058 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	15,966 株	23年3月期	15,966 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	33,254,365 株	23年3月期3Q	29,669,056 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧下さい。なお、1株当たり当期純利益の算定方法につきましては、当期純利益の予想値から普通株主に帰属しない金額(優先配当額)を控除して算出しております。

・決算補足説明資料及び動画による決算説明を、この決算発短信公表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る１株当たりの配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりです。

Ａ種優先株式

	１株当たり配当金					配当金総額（合計）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円
22年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
23年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
24年３月期（予想）	―	―	―	5,000,000 00	5,000,000 00	

（注）Ａ種優先株式の発行数は１株であります。また、平成23年３月期期末配当金は、当社定款に規程される分配可能額(5,000千円)に達しなかったため配当は行いませんが、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額5,041千円は累積され、当期の配当額5,000千円と合わせて優先株主に対して配当を行う予定であります。

Ｂ種優先株式

	１株当たり配当金					配当金総額（合計）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円
22年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
23年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
24年３月期（予想）	―	―	―	10,556,564 20	10,556,564 20	

（注）Ｂ種優先株式の発行数は１株であります。また、平成23年３月期期末配当金は、当社定款に規程される分配可能額(10,556千円)に達しなかったため配当は行いませんが、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額10,643千円は累積され、当期の配当額10,556千円と合わせて優先株主に対して配当を行う予定であります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．サマリー情報(その他)に関する事項 …… 5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
３．四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書 …… 8
四半期連結包括利益計算書 …… 9
（３）継続企業の前提に関する注記 ……10
（４）セグメント情報等 ……10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……12
（６）重要な後発事象 ……12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの企業の生産活動の急速な回復や、生活必需品を中心に節電や省エネ対策製品の需要増により、景気は持ち直しの動きを見せました。しかしながら過去最高水準の円高や世界経済の減速懸念、自然災害の発生などを不安要因として国内経済は足踏み状態が続き、雇用・所得環境の回復が進まないことから消費マインドは低調に推移いたしました。

当社グループが属する美容業界や衣料品業界におきましては、節電関連での一時的な需要増があったものの、猛暑や台風などの天候不順の影響もあり厳しい状況が続いております。

そのような状況のもと、当社グループは、第二創業の２年目となる当期におきましても、前期同様「ソフトと価値の提供」をテーマとした、商品以外のサービス・満足の提供を目指した施策を引続き実施し、来期以降の出店・拡大に向けたビジネスモデルの確立に取り組んでおります。

当第３四半期連結累計期間においては、スポーツ事業におけるユーザー体験イベントの開催数増、和装事業における「前楽結び着方教室」の開催店舗拡大・生徒数の増加、美容事業における差別化メニュー「山野式ヘッドスパ」導入店増など、「ソフトと価値の提供」戦略を強化してまいりました。

店舗開発としては、美容事業において５月に１店舗の新規出店、６月に２店舗の既存店リニューアルを実施、スポーツ事業において９月に１店舗の新規出店を行い、期間限定営業を２店舗実施いたしました。

その結果、当第３四半期連結累計期間における売上高は177億83百万円（前年同四半期比9.1％減）、前期の店舗閉鎖等により前年同四半期比では減収となりましたが、堀田丸正グループの構造改革により事業効率が向上し、営業利益は３億14百万円（前年同四半期比136.3％増）、経常利益は２億56百万円（前年同四半期比136.8％増）、四半期純利益は１億38百万円（前年同四半期は四半期純損失56百万円）と大きく改善いたしました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

1)「美容事業」

美容事業につきましては、他社との差別化戦略として、ターゲットを明確化した店舗設計である「ファミリーサロン」「アンチエイジングサロン」への店舗改修や新規出店を実施しております。また他社との差別化メニューとして「山野式ヘッドスパ」のサービス提供を開始、当第３四半期連結累計期間においては37店舗に導入いたしました。美容業界において頭皮ケア関連の需要が伸びている中、「山野式ヘッドスパ」の獲得件数も順調に推移し、客単価が前年同四半期比増となるなどの成果が現れております。

当第３四半期連結累計期間においては、「ファミリーサロン」を５月に心斎橋に新規出店、「アンチエイジングサロン」へのリニューアルを６月に２店舗実施いたしました。また来期以降の出店を見据えた人財育成強化策として、インストラクター制度を導入し、新教育体制の構築に向けマニュアル制定を進めております。

美容事業を営む子会社は２月決算であるため、３月度震災発生後の来店客数の著しい減少や、計画停電による営業時間短縮などにより売上が落ち込み、４月以降は回復を見せたものの、猛暑や天候不順による外出控えなどにより、来客数、売上高ともに前年同四半期比減少となりました。

この結果、美容事業の売上高は、22億43百万円（前年同四半期比5.3％減）、セグメント利益は１億74百万円（前年同四半期比13.9％減）となりました。

2)「スポーツ事業」

スポーツ事業につきましては、ソフトと価値の提供として①専門店ならではの提案力の強化、②体験サービスイベントの開催、③メンテナンスサービスの商品化、④ＷＥＢ通販の拡大を行っております。

例年実施しているウィンター大型催事ＷＳＳＣでは、テレビやラジオなどのメディアを使った販促を集中的に実施、また本年は商品数よりも商品チョイスを重視した品揃えで例年よりもコンパクトに展開した結果、催事売上の売上総利益率が前年同四半期比で向上いたしました。

当第３四半期連結累計期間に実施した店舗開発としては、９月に「ヤマノスポーツ柏店」を新規オープンしたほか、期間限定の営業を夏季、冬季にそれぞれ１店ずつ実施しております。

防災関連商品を中心にアウトドア関連の売上高は売上が伸長、また12月に降雪がありウィンタースポーツ用品の立ち上がりが好調となった一方、原発事故の影響により夏季におけるマリン、ダイビング関連商品の売上が伸び悩むこととなりました。

この結果、前期における店舗閉鎖の影響もあり、スポーツ事業の売上高は32億51百万円（前年同四半期比3.3%減）セグメント利益は28百万円（前年同四半期比64.2%減）となりました。

3)「ＤＳＭ事業」

ＤＳＭ事業につきましては、ミシン点検サービスや布団の丸洗いクリーニングなどのサービス機能を拡充し、お客様との関係性の深耕に努め、催事集客強化による販売施策を行っております。また、1909プラザ事業部とショッピングプラザ事業部のシステム統合に伴い、ショッピングプラザ事業部においても積立会員の募集を６月より開始いたしました。

３月に発生した震災の影響により、第２四半期連結累計期間において催事の中止や延期が発生いたしましたが、取引先に働きかけ東北支援催事の追加開催などに取り組んだ結果、７月以降の催事販売売上が回復してまいりました。訪問販売につきましては、津波の被害があった地域や原発関連の区域での活動縮小や、消費意欲の減退により売上高は減少いたしました。

この結果、前期における事業所の統廃合の影響もあり、ＤＳＭ事業の売上高は、27億17百万円（前年同四半期比10.5%減）となり、セグメント利益は69百万円（前年同四半期比50.2%減）となりました。

4)「和装事業」

和装事業につきましては、①店頭における着方教室「前楽結び着方教室」、②きものパーティなど「着る機会の提供」、③お手入れサービス「きものクリニック」の３施策を柱として、顧客の活性化、定着化に努めております。

当第３四半期連結累計期間においては、「前楽結び着方教室」を全40店舗中35店舗で開講、きものクリニックを37店舗で実施するなど「ソフトと価値の提供」戦略を強化してまいりました。

昨年度より取り組んできた上記施策が奏功し、７月度に開催した年間最大の催事「Aiko japan」や西日本での「祇園祭」、また12月に３ヶ所で開催した「ファミリーセール」では売上高、客単価ともに前年を上回ることとなりました。また高級呉服売上の構成比が前年同四半期比で増加し、売上総利益率が改善いたしました。

この結果、前期における店舗閉鎖の影響もあり、和装事業の売上高は、20億55百万円（前年同四半期比15.3%減）となりましたが、セグメント利益は15百万円（前年同四半期はセグメント損失29百万円）と黒字転換いたしました。

5)「卸売事業」

卸売事業につきましては、震災の影響から個人消費が低迷した事に加え、寝装部門において量販店との取組を見直したことにより売上高は減少いたしましたが、事業所の移転・統合による賃料の削減、前述の取引見直しに伴う物流コストの大幅な削減等により、利益は改善いたしました。

この結果、卸売事業の売上高は、59億81百万円（前年同四半期比10.3%減）となりましたが、セグメント利益は63百万円（前年同四半期はセグメント損失52百万円）となりました。

6) 「宝飾事業」

宝飾事業につきましては、店外大型催事への参加や店頭催事の絞込みなど事業効率の向上に努めてまいりました。また、金相場の高騰により地金買取が増加した影響もあり、セグメント利益は前年同四半期を上回り黒字転換いたしました。

この結果、前期における店舗閉鎖の影響もあり、宝飾事業の売上高は、８億68百万円（前年同四半期比4.7%減）となり、セグメント利益は27百万円（前年同四半期はセグメント損失５百万円）となりました。

7) 「その他の事業」

その他の事業の事業内容は、主にかねもり事業部の代理店を通じた呉服等を中心とした催事販売、RC卸事業部の健康器具卸、堀田（上海）貿易有限公司の意匠撚糸の販売、株式会社アールエフシー及び株式会社ヤマノ1909セイビングの前払式特定取引業による手数料収益であります。

その他の事業の売上高は、平成22年５月に化粧品卸事業を譲渡した影響により、６億64百万円（前年同四半期比16.3%減）となりましたが、セグメント損失は９百万円（前年同四半期はセグメント損失84百万円）と改善いたしました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、120億58百万円となり、前連結会計年度末比７億29百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金２億31百万円、受取手形及び売掛金４億13百万円、商品及び製品３億18百万円の増加のほか、流動資産その他１億円、敷金及び保証金82百万円の減少によるものであります。

負債につきましては、98億43百万円となり、前連結会計年度末比４億99百万円の増加となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金９億８百万円の増加のほか、有利子負債３億９百万円、未払金１億３百万円の減少によるものであります。なお、純資産は22億14百万円となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におきましては、復興需要等による景気回復は見られたものの、世界経済の減速と歴史的な円高の長期化により、経営環境につきましては厳しい状況が続いております。

一方で、当社グループが平成23年５月18日付「平成23年３月期決算短信」にて公表いたしました業績予想数値は、売上高は全事業が概ね順調に推移し、期初計画を上回る見込みとなりました。

また利益につきましては、一部販促費等の増加があるものの、全事業において経営効率が向上したことにより、期初計画を上回る進捗となっております。

上記より、平成24年３月期連結業績予想につきましては、売上高238億円、営業利益４億25百万円、経常利益３億50百万円、当期純利益１億50百万円に修正いたします。

平成24年３月期通期連結業績予想の修正（平成23年４月１日～平成24年３月31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	（百万円）	（百万円）	（百万円）	（百万円）	（円 銭）
前回発表予想（A）	23,680	350	280	130	3.52
今回修正予想（B）	23,800	425	350	150	4.01
増減額（B－A）	120	75	70	20	―
増減率（%）	0.5	21.4	25.0	15.4	―
(ご参考)前期実績 (平成23 年３月期)	25,973	190	154	△92	△3.59

上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。なお、１株当たり当期純利益の算定につきましては、当期純利益の予想値から普通株主に帰属しない金額（優先配当額）を控除して算出しております。

２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,786,979	2,018,359
受取手形及び売掛金	2,513,629	2,927,205
商品及び製品	2,761,590	3,080,579
仕掛品	23,015	12,636
原材料及び貯蔵品	82,216	92,623
その他	390,647	290,591
貸倒引当金	△90,212	△74,716
流動資産合計	7,467,866	8,347,279
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,962,278	1,908,671
減価償却累計額	△1,220,375	△1,205,803
建物及び構築物（純額）	741,903	702,868
機械装置及び運搬具	39,750	33,086
減価償却累計額	△37,675	△31,944
機械装置及び運搬具（純額）	2,074	1,142
工具、器具及び備品	670,107	643,765
減価償却累計額	△607,219	△590,762
工具、器具及び備品（純額）	62,887	53,003
土地	982,245	981,322
リース資産	14,262	27,277
減価償却累計額	△1,942	△4,823
リース資産（純額）	12,320	22,453
有形固定資産合計	1,801,431	1,760,789
無形固定資産		
その他	90,088	70,946
無形固定資産合計	90,088	70,946
投資その他の資産		
投資有価証券	152,694	115,715
長期貸付金	72,131	60,805
敷金及び保証金	1,651,351	1,569,321
その他	870,663	854,606
貸倒引当金	△777,897	△721,322
投資その他の資産合計	1,968,943	1,879,126
固定資産合計	3,860,463	3,710,862
資産合計	11,328,330	12,058,142

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,138,162	4,046,711
短期借入金	2,152,815	2,137,002
1年内返済予定の長期借入金	234,453	218,845
1年内償還予定の社債	187,500	111,250
未払金	971,351	867,646
前受金	953,798	1,000,283
未払法人税等	79,560	62,693
賞与引当金	20,300	21,294
返品調整引当金	20,184	17,005
ポイント引当金	77,048	68,645
株主優待引当金	4,101	4,101
その他	660,535	668,301
流動負債合計	8,499,811	9,223,781
固定負債		
社債	111,250	―
長期借入金	153,035	62,404
長期未払金	227,553	311,190
繰延税金負債	951	727
退職給付引当金	96,837	15
資産除去債務	174,304	174,169
負ののれん	26,791	16,453
その他	53,169	54,727
固定負債合計	843,892	619,687
負債合計	9,343,703	9,843,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,573,246	1,602,921
資本剰余金	1,997,697	2,027,372
利益剰余金	△3,115,932	△2,977,428
自己株式	△3,019	△3,019
株主資本合計	451,992	649,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10,391	△5,143
為替換算調整勘定	△79,726	△66,619
その他の包括利益累計額合計	△90,117	△71,763
新株予約権	1,044	―
少数株主持分	1,621,707	1,636,589
純資産合計	1,984,626	2,214,673
負債純資産合計	11,328,330	12,058,142

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）
売上高	19,563,981	17,783,166
売上原価	11,626,936	10,641,233
売上総利益	7,937,044	7,141,933
販売費及び一般管理費	7,804,032	6,827,568
営業利益	133,012	314,364
営業外収益		
受取利息	6,091	4,848
受取地代家賃	13,132	14,325
協賛金収入	11,099	10,282
負ののれん償却額	20,387	10,559
その他	64,501	43,884
営業外収益合計	115,211	83,899
営業外費用		
支払利息	105,927	94,579
手形売却損	999	856
その他	32,962	46,282
営業外費用合計	139,889	141,717
経常利益	108,334	256,546
特別利益		
固定資産売却益	5,860	5,961
投資有価証券売却益	719	－
貸倒引当金戻入額	5,468	－
債務免除益	17,388	－
その他	22,907	1,024
特別利益合計	52,345	6,986
特別損失		
固定資産売却損	530	－
固定資産除却損	5,124	7,549
減損損失	2,533	741
店舗閉鎖損失	26,722	7,915
事務所移転費用	－	10,819
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	104,973	－
その他	37,957	14,157
特別損失合計	177,841	41,183
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△17,161	222,349
法人税、住民税及び事業税	59,556	48,784
法人税等合計	59,556	48,784
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△76,718	173,565
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△20,140	35,060
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△56,578	138,504

四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△76,718	173,565
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,575	6,157
為替換算調整勘定	△19,343	12,794
その他の包括利益合計	△25,919	18,951
四半期包括利益	△102,637	192,516
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△81,136	156,157
少数株主に係る四半期包括利益	△21,501	36,359

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）セグメント情報等

Ⅰ 前第３四半期連結累計期間(自 平成22年４月１日 至 平成22年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	2,368,465	3,360,755	3,035,001	2,426,141	6,668,596
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	145,860
計	2,368,465	3,360,755	3,035,001	2,426,141	6,814,457
セグメント利益又は損失(△)	202,902	79,765	138,880	△29,156	△52,556

	報告セグメント		その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	宝飾	計				
売上高						
外部顧客への売上高	910,956	18,769,917	794,063	19,563,981	―	19,563,981
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	145,860	18,901	164,762	△164,762	―
計	910,956	18,915,778	812,965	19,728,743	△164,762	19,563,981
セグメント利益又は損失(△)	△5,438	334,396	△84,659	249,736	△116,724	133,012

（注）１ その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業及びその他事業等を含んでおります。

２ セグメント利益の調整額△116,724千円には、セグメント間取引消去17,442千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△139,521千円及び棚卸資産の調整額5,353千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３ セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：千円）

	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売	宝飾	その他	全社・消去	合計
減損損失	―	―	―	1,146	―	1,201	185	―	2,533

（注）その他の金額はすべてその他事業に係る金額であります。

Ⅱ 当第３四半期連結累計期間(自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	2,243,893	3,251,137	2,717,827	2,055,596	5,981,547
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	96,108
計	2,243,893	3,251,137	2,717,827	2,055,595	6,077,656
セグメント利益又は損失(△)	174,789	28,576	69,157	15,785	63,089

	報告セグメント		その他(注１)	合計	調整額(注２)	四半期連結損益計算書計上額(注３)
	宝飾	計				
売上高						
外部顧客への売上高	868,246	17,118,247	664,918	17,783,166	―	17,783,166
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	96,108	14,758	110,867	△110,867	―
計	868,246	17,214,356	679,677	17,894,034	△110,867	17,783,166
セグメント利益又は損失(△)	27,076	378,473	△9,670	368,803	△54,438	314,364

(注) １ その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。

２ セグメント利益の調整額△54,438千円には、セグメント間取引消去1,285千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△57,905千円及び棚卸資産の調整額2,181千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３ セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売	宝飾	その他	全社・消去	合計
減損損失	―	―	―	741	―	―	―	―	741

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）重要な後発事象

当第３四半期連結累計期間
（自平成23年４月１日 至平成23年12月31日）

当社は、平成24年２月８日開催の取締役会において、当社グループの組織再編について、下記のとおり基本方針を決議しております。

（１）当社の和装事業を、連結子会社である堀田丸正株式会社が100%出資する新設会社へ事業譲渡いたします。

（２）連結子会社である株式会社マイスタイル、株式会社ヤマノジュエリーシステムズを、当社が吸収合併いたします。

（３）前払式特定取引業による商品取次を行う、連結子会社の株式会社ヤマノ1909セイビングと株式会社アールエフシーを合併いたします。

１．本事業再編の目的

当社グループが属する小売・卸売業界においては、先行きの不透明感から停滞感も漂い、企業経営にはより一層の創意工夫、スピード感、著しい環境変化への対応力が求められております。そのような状況のもとで、事業グループを再編・集約し、効率化とシナジーを実現することによって企業価値の向上を図るため、今般の組織再編に関する基本方針を決議いたしました。

２．本事業再編の概要及び日程

（１）当社和装事業の事業譲渡の概要

① 譲渡先である設立会社（HMリテーリングス株式会社）の概要

商号	HMリテーリングス株式会社
本店所在地	東京都渋谷区代々木一丁目30番７号
代表者の役職・氏名	代表取締役会長　山野彰英 代表取締役社長　山野義友
事業内容	和装品等の販売
資本金の額	100,000千円
設立年月日	平成24年３月１日（予定）
大株主及び持株比率	堀田丸正株式会社　100％

② 譲渡する事業の内容

和装品等の販売 40店舗

③ 譲渡の時期

平成24年４月１日（予定）

④ 法的形式を含む事業譲渡の概要

当社連結子会社である堀田丸正株式会社が100%出資する新設会社への簡易手続よる事業譲渡

なお、（２）及び（３）の企業結合の概要及び時期等の詳細につきましては未定であります。